

港湾振興便り



2018. 2

第129号

:~

目次

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*~

1 ポートエッセイ

—新年度予算に大きな期待

ポートオブザイヤーは境港—

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

- 福井港海岸 直轄海岸保全施設整備事業完成式典を開催!

(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

- 新潟開港150周年プレシンポジウム「みなとまちの宝を磨いて」を開催

(新潟開港150周年記念事業実行委員会)

- 海上コンテナによる小口混載貨物を台湾物産展で販売

(一般社団法人 北海道国際流通機構)

- あおぞら組が港湾協力団体に指定されました

(青森県大間町 生活整備課)

- 水島港国際物流ターミナル整備事業着工式典を開催しました

(中国地方整備局 宇野港湾事務所)

- 四国へのクルーズ船寄港回数が過去最高を記録しました

(四国地方整備局 港湾空港部)

- 志布志港ふ頭再編改良事業着工式典を開催しました

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

*:

1 ポートエッセイ

—新年度予算に大きな期待

ポルトオブザイヤーは境港—

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

先月24日、新春恒例の自民党港湾議連の新年総会が自民党本部で開かれ、私も日本港湾振興団体連合会長として出席した。焦点は新年度予算案だったが、厳しい分野が多い中で港湾関係は前年度比プラス0.003%で編成されただけに、明るさが漂う総会となった。港湾議連の望月義夫会長も「皆さんの協力で良い予算となった。港湾議連には党総務会長の竹下亘さんも、現職大臣の梶山弘志さんもいる。党内最大の議連ですので、ご愛顧のほどを」と上機嫌で挨拶された。

私も日本港湾協会の代表らと共に挨拶の機会をいただき、新年度予算への御礼と振興団体の活動について紹介させていただいた。その後、議連の国会議員や参加首長から地元の港湾の状況などについて、活発な発言が相次ぎ、終始明るい雰囲気だった。

(伸び目立つクルーズ船)

夕方には港湾都市協議会役員・幹事合同会議が開かれ、ここでも振興団体連合会として挨拶させてもらった。国交省の菊地身智雄・港湾局長が「最近の港湾行政の動向について」と題して講演。予算案の4つの柱として①被災地の復旧・復興②生産性の向上と新需要の創出による成長力の強化③国民の安全・安心の確保④豊かで活力のある地域づくりを挙げた。地域活性化の面で特に注目されるのは訪日クルーズ旅客の伸びだ。国は「2020年に500万人」との大きな目標を掲げているが、去年は前年を54万人以上上回り253万人を超えた。さらに世界では2026年までに94隻のクルーズ船が建造され、成長著しいアジア市場に多くの新造船が投入される可能性があるとのことだ。

(境港、地域挙げて歓迎)

この動きをしっかりと受け止めているのが鳥取県の境港だ。去年のクルーズ船の寄港は61回、旅客は6万7千人とどちらも過去最大を更新したそう。クルーズ船の寄港時には地元の伝統芸能の披露に加え、保育園児も参加して歓迎行事を行うなど、地域ぐるみのおもてなしが評価を呼んでいる。こんな実績が評価されてポルトオブザイヤー2017に選ばれ、同日に表彰式が行われた。

前年の山形・酒田港に次ぎ、日本海側の港湾が活躍しているが、私の地元の新潟港はあまり明るいニュースがない。2011年の3・11大震災では最大の救援拠点として機能し、コンテナ取扱量が過去最大を大きく超えたが、その後は2011年のピークを超えられない状態が続いている。クルーズ船も金沢港までは活況を呈しているが、それより北では函館港を除いてそれほど伸びていない。昨年には函館市などと情報交換の場を持った。今後、先進港に学んで本格的にクルーズ船誘致に取り組んでいきたい。

(地方にも景気の明るさ?)

表彰式の後、これも恒例の港湾関係団体新春賀詞交歓会が開かれた。国会議員の方を含め例年以上に大勢の皆さんが参加していただいた気がする。地元の新潟市でもそうだが、今年の新年会は例年以上に明るさを感じられる。新潟市では「これまでアベノミクスの恩恵があまり感じられなかったが、ようやく少し明るくなってきた」と多くの経済人が挨拶で述べていた。景気の明るさをしっかりと受け取れる年にしていきたい。

*:

2 トピック

*:

●福井港海岸 直轄海岸保全施設整備事業完成式典を開催！

(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

1月14日(日)、福井県坂井市三国町のセンチュリオンホテル リゾート&スパ テクノポート福井において、福井港海岸直轄海岸保全施設整備事業完成式典が開催されました。

福井港背後には国家石油備蓄基地や福井県最大の工業団地「テクノポート福井」が整備され、地域の経済、産業を支えています。一方、備蓄基地前面では、厳しい波浪で侵食が進んだことにより増大した波高で、消波ブロックの飛散・沈下が生じ、護岸機能が低下していたことに加え、越波による陥没や備蓄基地フェンス倒壊が多発し、背後への甚大な浸水被害が懸念されました。

このため、平成16年度から直轄海岸保全施設整備事業として、離岸堤(潜堤)により波浪を抑制、護岸(改良)で吸出防止及び液状化対策により護岸を強化してきました。本事業の完成により背後への浸水被害を回避し、備蓄基地の緊急時の石油供給体制や背後に立地する企業の安定した活動を支えることが可能となりました。

式典では、西川福井県知事、石井国土交通大臣(代読)の挨拶に続き、稲田衆議院議員、東村福井市長及び坂本坂井市長から祝辞を頂いた後、小俣北陸地方整備局長から西川知事へ海岸保全施設目録が引渡され、最後にくす玉開披により完成を祝いました。また、式典に先立ち三国中学校郷土芸能部(県内唯一)がフレッシュで力強い演奏を披露しました。

本事業は完成を見ましたが、当所としては、引き続き地域の安全安心、経済と暮らしを支える福井の港湾整備に、しっかりと取り組んでいきます。



「目録引き渡し」(左:西川知事、右:小俣局長)



「くす玉開披」参加者による記念撮影

●新潟開港150周年プレシンポジウム「みなとまちの宝を磨いて」を開催

(新潟開港150周年記念事業実行委員会)

2019年1月の新潟開港150周年に向け、みなとまち新潟の魅力を再発見するプレシンポジ「みなとまちの宝を磨いて」を1月13日、新潟市中央区の朱鷺メッセで開催しました。

約200人が参加したシンポジウムの基調講演では、新潟大学の原直史教授が新潟港の歴史について語り、開港5港の中では唯一の河川港である新潟港は、江戸時代に北前船の寄港地として発展するとともに、海からだけでなく川を通じて各地の港と結ばれ舟運が成り立っていた事、江戸時代の港の繁栄が開港へと繋がっていった事などが解説されました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、元宝塚歌劇団月組組長 越乃リュウさん、古町芸妓 あおいさん、NPO法人「にいがた湊あねさま倶楽部」代表 小島富美子さんの新潟市出身の女性3人と篠田昭新潟市長が、それぞれが考える新潟の宝について意見を交わしました。



基調講演の様子



パネルディスカッションの様子

●海上コンテナによる小口混載貨物を台湾物産展で販売

(一般社団法人 北海道国際流通機構)

当機構は、苫小牧港発の海上小口混載コンテナ輸出サービスで、道産野菜やお菓子等を常温・冷凍コンテナ(20ft)各1本ずつに混載して台湾へ輸出し、それらの商品を現地の物産展で販売しました。

物産展は、1月18日(木)～29日(月)の12日間、「TaiMall」(＝週末には4～5万人を集客する台湾のローカル百貨店)で開催された北海道物産展兼商談会で実施されました。なお、当機構も出展企業として参加しました。

北海道産の、じゃがポックル等のお菓子、ホタテやカニ等の海産物、玉ねぎ等の野菜、加工食品、ワインや日本酒等の酒類、民芸品等の加工製品が販売され、特に、かまぼこやラーメン等の売れ行きが好調でした。

また、物産展の商品に興味を持った海外バイヤーを対象に、別ブースで個別商談会が実施され、当機構のサポートにより、函館の企業が商談を成立したところです。

このように、当機構の小口混載コンテナによる輸出は、小口貨物の混載・バンニング並びに輸出事務手続きの代行等を当機構が行うため、輸出初心者や小口貨物の荷主であっても、安価で簡単に輸出を実現することができます。また、輸出業務のみならず、海外企業との商談まで当機構がサポートすることで、

北海道産品の海外展開に寄与させていきます。輸出に興味のある方は、当機構(電話番号:011-806-1460)までご連絡ください。



台湾物産展の様子



当機構の販売ブース

●あおぞら組が港湾協力団体に指定されました

(青森県大間町 生活整備課)

1月5日(金)、青森県が大間港の港湾協力団体として「あおぞら組」を指定しました。

港湾協力団体とは、官民連携による港湾の管理体制構築を促進するため、平成28年7月の港湾法の改正により設けられた制度です。港湾管理者が指定するものであり、県内では青森港、八戸港に次いで3番目の指定となります。

1月16日(火)、大間町役場において指定証の交付式が行われ、青森県県土整備部の平田港湾空港課長代理より「港湾協力団体指定証」を交付された菊池良一組長は、「大間港は北海道からの海の玄関口の一つで人々が往来する賑やかな場所であり、あおぞら組の活動の原点である場所でもある。今後も引き続き、精力的な活動を継続していきたい。」と今後の決意を述べられました。

「あおぞら組」は、大間町が NHK 連続テレビ小説「私の青空」の舞台となったことを契機に平成12年2月に結成されました。大間港においてフェリーの乗降客を歓迎するため大漁旗を振る「旗振りウェルカム活動」や観光客をおもてなしする「オーマの休日」等を地元高校生と一緒にを行い地域を盛り上げており、今後ますますの活躍が期待されます。



平田港湾空港課長代理(左)と菊池組長



旗振りウェルカム活動の様子

●水島港国際物流ターミナル整備事業着工式典を開催しました

(中国地方整備局 宇野港湾事務所)

「水島港国際物流ターミナル整備事業」が現地着工の運びとなり、1月27日(土)に岡山県倉敷市において「水島港国際物流ターミナル整備事業着工式典」(主催:国土交通省中国地方整備局、岡山県、倉敷市)を挙りました。着工行事では橋本岳衆議院議員や加藤勝信厚生労働大臣を始めとした来賓代表により鋼管杭打込みの起動スイッチが押され、ランプの点灯と同時に杭打機が作動し、杭の打込みの音が響き渡ると会場からは大きな拍手が沸き起こりました。

本事業の着工により、国際バルク戦略港湾政策に基づき、企業間の連携による穀物の大量一括輸送に対応した輸入拠点及び効率的な海上輸送ネットワークの形成に向けて水島港の整備が進められることとなります。



橋本岳衆議院議員



加藤勝信厚生労働大臣



柚木道義衆議院議員



池田道孝衆議院議員



石井正弘参議院議員



小野田紀美参議院議員



伊原木隆太岡山県知事



伊東香織倉敷市長



起動スイッチのランプ点灯

●四国へのクルーズ船寄港回数が過去最高を記録しました

(四国地方整備局 港湾空港部)

平成29年の四国へのクルーズ船寄港回数が93回(対前年比 1.66 倍)と、過去最高を記録しました。寄港回数の多かった港は、高知港が42回で続いて高松港13回、宇和島港12回、徳島小松島港11回、宮浦港(直島)6回となっています。

また、クルーズ船により四国を訪れた外国人旅客数は、平成29年は約 95,700 人にのぼり、平成28年の約 55,700 人から 1.72 倍と大幅に増加しています。平成30年も四国へのさらなるクルーズ船寄港回数の増加が期待されます。

「クルーズ船実績調査」につきましては、下記よりご覧いただけます。

http://www.pa.skr.mlit.go.jp/news/300109_cruisereport.pdf



徳島小松島港 (コスタネオロマンチカ)



高松港 (ザ・ワールド)



宇和島港 (ロストラル、宇和島さんさの唄と踊りを披露)



高知港 (サファイア・プリンセスと飛鳥Ⅱと同時寄港)

